

4～6月のNi, Co相場予測 メタルドゥ山頼氏らが寄稿
今年4～6月の相場見通しについてメタルドゥの山頼敏彦氏(代表取締役・専務)にニッケルを、片山こころ氏(海外営業部部長代理)にコバルトを寄稿してもらった。

Niはインドネシアの鉱石輸出制限でさらなる大幅減産もニッケル相場(LME)は1月に8.35ドル/lb(18,400ドル/t)からスタートし、2月初旬の9ドル台後半(21,000ドル台)まで順調に上昇した。しかし、2月中旬にギリシアのデフォルト懸念で下落し、9.07ドル(20,000ドル/t)前後で推移した。需要面では、ステンレスは伸びておらず、生産調整中。ニッケル水素電池(MH)は、ハイブリッド車など一部メーカーが好調も、全体はフル生産にいたっていない。今年の一部プラントの操業開始で、若干の供給過多と聞く。LME在庫も増加しまもなく10万t超になる。

今後の市況見通しは、中国が3月に今年の実質国内総生産の成長目標を8%から7.5%に引き下げるなど、同国の需要減退が相場の重石になっている。アメリカ経済は緩やかに成長しているが、連邦公開市場委員会(FOMC)が金融緩和の追加実施に明確な声明も出さないなど、ファンド筋も様子眺めの感がある。一方で、現状でもニッケル相場が弱く、ニッケル生産者は採算悪化で減産している。インドネ

シア政府が5月からの鉱石輸出制限を発表すれば、中国のニッケル含有銹鉄はさらなる大幅減産となる。4～6月の相場はしばらく弱含みで推移し、底値を7.98ドル(17,600ドル/t)とし、7.98～9.07ドル(17,600～20,000ドル/t)とみる。

4～6月のCoは中国市場弱く供給過剰感が解消せず

コバルト価格(LMB, Low grade)は16日に13.20USドル/lbとなり、リーマンショック後の09年2月末の急落後では最安値となった。09年の時は9.90ドルに急落し1ヵ月後に暴騰へ転じたが、今回は需要が悪くオーバーサプライ(供給過剰)感が強い。特に中国市場は景気後退感があり、大手メーカーが50%の生産カットを実施し、生産停止の中小メーカーも出るほど需要が悪い。原料の鉱石も、コンゴ民主共和国やザンビアからの輸入量が今年に入り58%ダウンしている。世界経済はヨーロッパの債務問題の懸念により動きが弱く、コモディティへの投資意欲が弱い。LME在庫は55t増え342tとなり、LME相場も活況に欠ける。

航空機や電池の需要は織り込み済みのため、今年から数年間はオーバーサプライ傾向と言われる。ヨーロッパ債務問題や投機資金の金属市場離れなど、しばらく市況の弱さが続くと思われる。4～6月の相場(LMB)はLow gradeで12.50～14.00ドル、High gradeで13.00～16.00ドルと予想する。